

① みよりの秋に飢餓体験

社会奉仕・人間尊重地域発展委員会
委員長 竹村 陽子

RI のテーマ 『意識を喚起し、進んで行動を』を受け、人道的プロジェクト「飢餓、病気、ストリートチルドレンのために」啓発事業を、会員の団結と協力の中、世界の発展途上国の飢餓の状況を知り、飽食と物にあふれた日本の現状を省み、体験と知識



を通して命の尊さ、やさ

しさ、そして物の大切さを学ぶきっかけとする『みよりの秋に飢餓体験』を旭川モニングロータリークラブ（会長 河崎 高麗男）は2000年9月24日 旭川市江丹別若者の郷「若者センター」で開催した。



内容は、ビデオ上映・「共に生きる」「エチオピアの人々と共に」飢餓の現地での模様を鑑賞、基調講演には日本青年海外協力隊の中西雅美さんが実体験として日本では考えられないほどの飢餓の状況報告が有り、また、海外の子供たちの飢餓のパネル展、肥満診断等を実施した。



まずは、社会奉仕竹村陽子委員長の開会の言葉で始まり、会長の

河崎高麗男が実りの秋に飢餓体験、世界の子供達のためにと題して、ここで皆さんに世界の飢餓問題に



ついて勉強をして頂こうと企画させて頂いた。私達日本では、何でも手に入り、口に入れる事が出来るが、今世界では毎年8億人からの人々が飢餓と栄養失調で苦しんでいます、そして毎年実際に飢餓と栄養失調のために死亡する人々は1日に4万人、1年に1500万人にもなり、その内4分の3が乳幼児だと言われています。ビデオや青年海外協力隊での活躍された中西

雅美さんの現地での体験講演、パネル展などで是非皆さんにこの実態を知ってほしいと挨拶があった。

ビデオは日本国際飢
餓対策機構からの

「共に生きる」

「エチオピアの人々
と共に」を上映され

出席者は真剣な眼差



しで（水や食べ物を何キロも求めて歩く姿など）食い入るように見つめていた。



日本青年海外協力隊の中西雅美さんは、パラグアイで保険医療活動をされた体験で識字率の向上、教育の充実、衛生面の改善が飢餓対策で重要であり、日本の援助が必要と世界での飢餓に対する理解を深められた。

この会のイベント
の趣旨に賛同して

頂いたトゥイマーダ旭川男声合唱団による合唱（ローマ法王の前でも合唱したこともある）が「お腹空いても、歌で明るく豊かな気持ちを味わって」と数々の美しいコーラスを披露してくれた、参加者はこのプレゼントに大喝采でした。



そして別室会場では、飢餓により海外の子供たちによるパネル展や健康肥満診断コーナを設け飽食による肥満について勉強をした。



そしてメインイベントの試食会、昔、食べ物に困った頃に食べたあの味を福居恵美子会員が再現、ロータリアンが用意した手作りの料理「芋がゆ」「だいこん飯」

「おから汁」の3種類「うえー、不味いよー」とぼやく子供



「食べられるだけでもありがたいと思いなさい」とお母さん・お父さん。「う～ん、懐かしい」

「この粥は箸が立つ

なあ、もっとしゃばしゃばなのを食べていたな」と年配者、「なかなかヘルシーで健康的、ダイエットにいいかも」という若者・・・と反応もさまざまであったが、大変飢餓を考えるき



っかけになったようであった。

イベント前は、バーベキューなら人は集まるけど、飢餓体験では集まるかな？しかも旭川から25 kmも外れた江丹別にと不安であったが、ロータリアンの呼びかけで（オリンピック女子マラソンのテレビ中継の最中にも関わらず）なんと一般参加者105名も参加者が有り会場ところ狭しと集い、ロー



タリアンの準備・会場での担当にと活躍、催しもスムーズに進行し盛会で実り多い素晴らしいイベントであった。

大切な食事かみしめた

旭川で飢餓考える集会

世界規模で飢餓が深刻に 物を平気で捨てている現状
なる一方で、先進国では食



「みのりの秋に飢餓体験」でいもがゆやダイコン飯などを食べる子供たち

の秋に飢餓体験」が二十四
日、旭川市江丹別にある市
民施設「若者の郷」で開か
れた。約百人が参加し、食
糧難の時代に食べられてい
た代用食を食べたり講義に
聞き入った。

収穫の秋に合わせ旭川モ
ーニングロータリークラブが
初めて催した。
実は、旭川在住
で青年海外協力隊員として
巴拉グアイで保健医療活動
をしてきた中西雅美さんが
講師し「飢餓の解決には識
字率向上など教育の改善が
必要で、日本の支援が重要
と強調した。

続いている体験では、参加
者が「いもがゆ」や「ダイ
コン飯」などを神妙な顔つ
きでかみしめていた。子供
や友人らと参加した旭川市
在住の主婦宮原律子さん
（三七）は「食べ物のありがた
みを改めて痛感しました。
子供たちにも感謝して食卓
していくように教えていき
ます」と話していた。

北海道新聞平成12年9月25日

わいわいがやがや広場 (I)

新聞報道の効果を買った旭川モーニングRC

報告者

旭川東ロータリークラブ

三ツ井 隆 信

ロータリークラブの社会奉仕活動と広報活動の成功をお知らせします。

右下の北海道新聞の記事をご覧ください。

旭川中心部から20kmの農村部に34世帯の江丹別中央地区がありますが、9月24日日曜日に、この静かな地区の若者センターには、新聞で知ったという人達の自動車50台と200人からの目とが集合して「みのりの秋の飢餓体験」に参加しました。

旭川モーニングRC (会長 河崎高麗男) の社会奉仕委員会 (委員長 竹村陽子) によるプログラムは次の通りです。

- 10:30 受け付け
- 11:00 開会の言葉 旭川モーニングRC
社会奉仕委員長
竹村 陽子
- 会長挨拶 旭川モーニングRC
会長 河崎高麗男
- 11:10 ビデオ上映 日本国際飢餓対策機構
- 11:45 講演 日本青年海外協力隊員
中西 雅美様
- 12:20 パネル閲覧・肥満診断
- 13:00 飢餓体験 トウモロコシ・小麦粉汁
イモ粥・大根飯の試食
- 13:25 アンケート
- 13:50 開会の挨拶 旭川モーニングRC
幹事 臼杵 真治
- 14:00 閉会

食べ物の大切さ実感しよう

十分な食料に恵まれる。発展途上国の子供たちの痛みを肌身で知る集い「みのりの秋に飢餓体験」は、小麦粉とトウモロコシ (主催・旭川モーニングロータリークラブ) が二十四日午前十一時、旭川市の江丹別若者の郷・若者センターで開かれ、戦後日本で食べてこなかったイモがゆ食べ飢餓体験も、ロコシの粉を混ぜて煮粥した東アフリカの日常料理や、海外援助の現状を伝えるパネル展示など、飯を参加者が試食する。また、途上国で自立支える切手や書き損じはがきなどの寄付を受け付ける。会費は大人五百円、子供三百円。参加申し込みは二十日までに同実行委の竹村さん(0166-57-5255)へ。

24日に江丹別で集い

イモがゆ食べ飢餓体験も

参加申し込みは二十日までに同実行委の竹村さん(0166-57-5255)へ。

北海道新聞